

## 守山まるごと活性化 議事要旨

作成者:植村

会議名: 平成30年度 第2回 まるごと活性化A(諏訪家屋敷プロジェクト)会議

日時: 平成30年11月5日(月)午後7時30分から午後9時15分まで

場所: 玉津会館 会議室1

出席者: プロジェクトメンバー7名、会館職員2名

資料

## 議題

- (1)今年度の諏訪家屋敷まつりについて(実施報告)
- (2)各部会ごとの次年度以降の活動計画について(事業予定について)
- (3)次年度以降の活動について

## 会議要旨

## 内容

(1)今年度の諏訪家屋敷まつりについて(実施報告)

(事務局)先日11月3日に諏訪家屋敷まつりが開催された。当部会からは語り部による昔話・わたがし・サツマイモの天ぷらの提供、小菊部会による小菊盆栽展、その他は地元自治会や地元商店の出店等。来場者は約500名とのこと。老若男女が訪れにぎわっていた。

(2)各部会ごとの次年度以降の活動計画について(事業予定について)

(事務局)今後の方向性は、まず語り部部会については事業を継続。こども園や小学校との連携を維持しながら、将来的に「ここにお願ひすれば何かやってもらえる。」と思われるような団体を目指す。小菊部会についても継続し、次年度以降も諏訪家屋敷で実施予定の小菊盆栽展への出展を目標とする。歴史散策部会については、先日会議を実施したが継続如何が定まらなかったため、このAプロジェクト全体会にてプロジェクト自体の方向性を決めていく中で決定する。

(3)次年度以降の活動について【1】諏訪家屋敷プロジェクトの目標について

(事務局)本会議までに諏訪家屋敷の運営が文体へ移行したことにより、このプロジェクトとしての目標が曖昧になってしまったとの声が多くあった。よって、この場でまるごと活性化プランに定められた当初目標をもとに、5年間の間に变化したこと、今後活動していくにあたり目標として加えるべきこと、省くことを検討していき、プロジェクト目標の再確認・再設定をしていきたい。

・5年で变化したことの一番大きいことは、先ほどからも出ているように運営が文体になったこと。市のものになったことで少し”玉津”からは離れてしまった気がする。しかし、諏訪屋敷の再整備による再建はプロジェクトの大きな成果。

・諏訪家屋敷が日本遺産になったことも变化のひとつ。運営の移行と合わせて広報、PRがあったおかげで地元の人含め、今まで訪れたことのなかった人も来るようになった。

・市の遺産になったことで触りにくくなってしまった部分もある。以前昔の農機具等展示するという話もあったが、結局おいていない。昔の生活が分かるものがあれば市内小学校の学習にも使えるのに。今の屋敷はどちらかという大人向け。

・文体がどのような方向で運営していくのか。スタートの今年はまだ定かではないがこちらとしてもどのように参画していけばいいかわからない。

・市は屋敷を「文化遺産」としてとらえ、地元は「身近な諏訪さん」としてとらえている。そこに少し乖離がある。

・整備前の諏訪屋敷には、例えばひな祭りの時期にはおひなさんを展示したり、半夏生があったり、わらじを編んだり、四季や生活の文化が根付いていた。そのようなイベントを提案、要望していきたい。

・玉津の外からも、呼びかけて地元の人と一緒に取り組んだり参加してもらいたい。一人でも多くの人に喜んでもらいたい。

⇒文体側からの呼びかけを待つのではなく、地域の側からこれをやらせてほしいとどんどん企画していくべき。プロジェクト含め、それぞれの活動の中でどのように屋敷を使っていくか。⇒諏訪家屋敷側との検討の機会が必要。

(裏面に続く)

## 会議要旨

### 内容

・目標にある「まちづくりの担い手」については現在あまりできていない。次の世代をこどもに託すのか、中年に託すのか。ただし中年であれば働いていたりするとなかなか難しい。  
【結果】目標としてはおおむね当初目標のとおり。屋敷の運用については、文体側ができない部分を地元から声をかけていく。

#### 【2】まるごと活性化に定める取組の整理(優先順位付け)

- ・最優先は「取組1 諏訪家屋敷を活用した地域の人々主体の憩いの場づくり」  
⇒現在の諏訪家屋敷は広場までは無料だが入場料が必要で、広場にもベンチ等休める場所がない。人々がつどいやすい状況が必要。
- ・せっかく諏訪家屋敷に来てもらっても説明がないとどこをみたらよいかわからない。運営として、地域として諏訪家屋敷のなにを見てほしいか。
- ・「取組2 諏訪家屋敷を軸とした農村文化まるごと体験」は主にまちづくりの担い手を育てる場として。諏訪家屋敷独自の品や、諏訪や玉津の歴史がわかるもの(アピールするもの)を考える。
- ・「取組3 地域の新しい特産物の開発販売」については、プラン策定の際諏訪家屋敷が文体ではなく地域の管理になる前提で取り決めたという背景がある。文体が運営となった今、落とした方が適當。
- ・「取組4 玉津の隠れた名所の掘り起こしと名所選定、手作りツアーの実施」について、1つ目の「諏訪家屋敷等をめぐる歴史街道ツアーの実施」はすでに観光ガイドなど観光協会が実施しているのでまるごとではしなくてもよいのでは。
- ・名所選定については、神社仏閣等のハードというより祭りや文化等のソフト面で設定していきたい。
- ・「取組5 歴史・伝統文化の語り部の育成と活躍の場づくり」については語り部部会で継続して取り組んでいく。歴史街道ツアーについては、佐々木街道を歩く計画のこと。
- ・「取組6 玉津の伝統文化の遊びを次代に伝える仕組みづくり」については特に実施しない。

#### 【3】実施する取組を達成するために

- ・組織の見直しは必須。まるごと全体の課題でもあるので他プロジェクトとの兼ね合いもみながら次年度の参加について意向確認をしていく。

### 決定事項

文体側と日程を調整し、次年度以降の屋敷の活用について検討する。(年明け頃)